

表1 美ヶ原高原の散策で確認できた植物種 (林縁山道20m×500m:精査ではない)

1 アカハナ	21 コケモモ	41 ノコンギク	61 ヨツバヒヨドリ
2 アキノキリンソウ	22 コマツカ	42 ハクサンフウロ	62 ヨモキ
3 イブキホウフウ	23 サラサトウタン	43 ヒゲノカリヤス	63 リョウブ
4 イワノカリヤス	24 サンフクリントウ	44 ヒメシダ	64 レンゲツツジ
5 ウスユキノソウ	25 シヤジクソウ	45 ヒメシャジン	65 ワレモコウ
6 ウツボグサ	26 シュロソウ	46 ヒメツツジ(チョウジ)	
7 ウド	27 シラヒソ	47 ヒメノカリヤス	
8 ウマノヂソウ	28 シロツメクサ	48 ホタルサイコ	
9 エビガライチコ	29 シロハナヘビイチコ	49 ホタルフクロ	
10 オオハコ	30 スミ	50 マツムシソウ	
11 オオハミナカエデ	31 タカネサクラ	51 ミネカエデ	
12 オトキリソウ(アカテン)	32 タチコメクサ	52 ミヤマオトコヨモキ	
13 カラマツ	33 タニソバ	53 ミヤマニガイチコ	
14 キオン	34 チダケサシ	54 ミヤマスカボ	
15 キツネノホトケ	35 テガタトリ	55 ミヤマハンノキ	
16 クガイソウ	36 トナリハ	56 ミヤマワラビ	
17 クマイササ(シナノ)	37 トクチノデ	57 ムシカリ	
18 クンハイツル	38 ナナカマド	58 ヤマトリセンマイ	
19 コウゾリナ	39 ニシキウツキ	59 ヤマハギ	
20 コキンレイカ	40 スカバ(?)	60 ヤマハハコ	

表2 1m²を100メッシュに分けて精査した
草原の局所植物多様性の例

1 シロツメクサ	100	1 ヲシノケグサsp	100
2 ヲシノケグサ	98	2 マツムシソウ	12
3 ハクサンフウロ	26	3 ウマノヂソウ	9
4 ヒゲノカリヤス	18	4 ウマノアシカタ	8
5 オオハコ	11	5 ヤマハハコグサ	8
6 ウマノアシカタ	7	6 イブキホウフウ	7
7 オオアワガエリ	6	7 クンハイツル	6
8 アキノキリンソウ	5	8 ヒメスゲ	5
9 アカショウマ	3	9 ネハリノキラン	5
10 セイウタンホホ	3	10 ヤマハハコ	4
11 ウツボグサ	2	11 オトキリソウsp	4
12 ミツハツチクリ	2	12 タチコメクサ	4
13 フランスギク	2	13 ヨモキ	4
14 クサイ	2	14 アサミsp	4
15 イトリ	2	15 アカショウマ	4
16 ヨモキ	2	16 セイウタンホホ	4
17 シバスケ(ヒメ)	1	17 ヒメハナワラビ	3
18 オオヤマフスマ	1	18 シロツメクサ	3
19 ミナグサ	1	19 ノコンギク	3
		20 ヤマハナワラビ	2
		21 コウゾリナ	2
		22 ハクサンフウロ	2
		23 ヒメノカリヤス	2
		24 ミナグサsp	2
		25 オオハコ	2
		26 ヤマハハコsp	2
		27 ハナハナ	1
		28 アキノキリンソウ	1
		29 ウツボグサ	1
		30 ??	1
		31 ヤマニガナ	1
		32 ミツハツチクリ	1
種密度和名	頻度	33 リントウsp	1

< 秋季例会報告 >

小路峠と阿寺溪谷の植物観察会

楯 誠治 (木曽郡三岳村10092)

第163回例会は、2001年10月13日(土)、14日(日)の両日、木曽郡大桑村の小路峠と阿寺溪谷で行われた。参加者は、林一六会長、小口好久、中山湧、松田行雄、中村英夫、佐藤利幸、川上美保子、田中袈裟平、宮島吉彦、大平仁一、安斉好広、黒岩正、和泉国子、高野すみ子、山本れい子、藤倉祐子、篠原喜運、地元から池田信三、楯誠治、今井仁美、青島勉、永井茂富、阿寺溪谷を愛する会の金澤英明夫婦、古畑、松原、勝野の27名であった。

第一日目午後1時に大桑村「フォレスト・木曽」(旧阿寺荘)前に集合、楯の案内で小路峠の散策に向かう。ヤマハギ、マルバハギ、スルデ、ノコンギク、スズカアザミ?、ツクバネ、オカトラノオ、コチジミザサ、ニガイチゴ、エゴノキ、リョウブ、キリシマミズキ、サルトリイバラ、キブシ、イヌサンショウ、ネムノキ、ソヨゴ、クロモジ、イヌツゲタムシ

バ、ヤマハンノキ、ケンボナシ、アマズル、ツルニンジン、フサザクラ、コバノミツバツツジ、アケボノソウ、コウゾ、コブナグサ、オオキツネヤナギ、ウメモドキ、アリノトウグサ、ミミカキグサ、シカクイ、コイヌノヒゲ、イトイヌノヒゲ、モウセンゴケ、ヌメリグサコケオトギリ、コマツナギに似ているがおおきもの？、ベニバナポロギク、クコ、イシミカワ、ハリガネワラビ、テリハノイバラ、ヤワラシダ、ツボスミレ、オオチドメグサ、ススメノヒエ、ヌマトラノオ、チダケサシ、ヌマハリイ、ヒメジソ、ミツバツツジ、ネジキ、ナガバノモミジイチゴ、ウリカエデ、コシアブラ、フイリフモトスミレ、ヤマジノホトトギス、ヤマハッカ、コアジサイ、リュウノウギク、シロヨメナ、キッコウハグマ、キソジノカンアオイ、アセビ、ツルアリドウシ、ツルリンドウ、サワフタギ、タカノツメ、ヤブタバコ、ミヤマクロモジ、キジノオシダ、シコクスミレ、ミツバツツジ、マルバノキ、オトギリソウ、バイカウツギ、メリケンカルカヤ、スノキ、ミヤマイタチシダ、ハイイヌガヤ、トチバニンジン、マルバフユイチゴ、ヤマアジサイ、フクオウソウ、チドリノキ、キヨタキシダ、イワヒメワラビ、ミヤマササガヤ、コバノイシカグマ、ベニシダ、イヌワラビ、タチヒメワラビ、ハチジョウイタドリ（道路の工事のために入った）、ハシカグサ、モリイバラ、アブラススキ、チチゴグサ、オオツルウメモドキ、カリヤス、コゴメヤナギ、ミゾシダ、コハクウンボク、エビガライチゴ、オオモミジネコハギ、アブラシバ、ヒメコウゾ、コメナモミ、サトメシダ、アレチヌスビトハギ、ヤブガラシなど確認できた。

夕方4時過ぎに「フォレスト・木曽」に入り夕食を食べた後、佐藤先生のスライドで勉強会をし、部屋で懇親を深めた。

第2日目：林会長の挨拶の後、車に分乗して、阿寺溪谷に入る。途中車から降りて、オオウラジロノキの大きな実を確認した。さらに、少し進んだところの岩場では、ダイモンジソウ（ナメラダイモンジソウのタイプ？）、ケイリュウタチツボスミレ、カナクギノキ、

オサシダ、ツリバナ、イヌシダを確認した。さらに進み、オートキャンプ場を過ぎたところで林道のゲートの鍵を開けて中に入る。阿寺川本流と北沢の分岐点に車を止めて、北沢に沿って観察会を行う。ミズメ、アカシデ、ネジキ、コミネカエデ、ミズナラ、アワブキ、コハウチワカエデ、アセビ、クリ、ミズキ、センノキ、ケンボナシ、ウリハダカエデ、シラカバ、ミヤマヤシャブシ、クサギ、イヌガンソク、ツルシキミ、マツブサ、ソヨゴ、フクオウソウ、ヌルデ、クモキリソウ、コハクンボク、エビガライチゴ、フジシダ、ニワトコ、ホソバミズゴケ、サンカクズル、サイカチ、サルナシ、ウラゲエンコウカエデ、オニツルウメモドキ、ヒメシャガ、モミ、オオミヤマガマズミ、ケオオクマヤナギ（長野県から初の記録になるそうです、植物誌の検索表には記載がない。）、ミヤマチョウジザクラ、イソノキ、キリシマミズキ、ホソバガンクビソウ、ハリガネワラビ、キブシ、コナスビ、エダウチチジミザザ、シラゲヒメジソ、コヤブタバコ、ウスギヨウラク、ヒメクロモジ、ケシロモジ、ニコゲヌカキビ、サワオトギリ、最終目的地でエゾユズリハの群落を確認、実を付けているものを写真に撮る。ハクサンカメバヒキオコシ、エダウチヒヨドリバナ、下ってきて車のところで昼食にする金澤さんの奥さんがみそ汁を作ってくださったのでおいしくいただく。アテラアザミを確認するために阿寺川本流に車で入る。途中ハナノキ大木を見てさらに上って、アテラアザミを確認した。下ってきて、中部電力がダム建設の予定している地点で、阿寺溪谷を愛する会のメンバーから説明を受ける。

3時頃に「フォレスト・木曽」に戻り記念写真を撮って、林会長、佐藤幹事からお話を聞いて解散した。中山氏、松田氏は、珍しいものがあるから、丁寧に調査する必要があることを要望された。

以上